

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 4 2 号
件 名	B R Tシステム及び連節バスに関することについて
要 旨	<p>B R Tシステム及び連節バスを中止，小型バスの運行をふやし便利にしてほしい。</p> <p>9月5日の開通以後，バスの利用が非常に不便になっており，B R Tシステム全体に対して市民の不満が噴き出ている。</p> <p>①結節点での乗りかえが辛い。</p> <p>乗りかえのためおろされ，次のバス停まで距離がある。つなぎのバスがなかなか来ない。時刻表の連結がスムーズではない。目的地に着くまでに無駄な時間がかかる。わずかな直通便に乗りたい人が集中するため混んでしまう。郊外の路線は，直通が減り不便になった。乗りかえの便数にしても何本しかふえず昼の便が減ってしまった。現金の場合，料金が今までより高くなる。</p> <p>②B R Tを意味する高速バスの部分が何も生かされていない。</p> <p>青山－新潟駅の距離においても，狭い道路を走るためスピードを出すことができず高速などとはいえない状態である。連節バスは乗りおりに時間がかかるため，白山駅，本町を素通りしている。</p> <p>③狭い道路にトレーラー（長さ18メートル）のような大型バスは危険である。</p> <p>2カ月の短い期間に4回も事故を起こすなど事故の回数が多過ぎる。狭い道で自転車に乗っていたとき，脇を通った連節バスと接触しそうになる。連節バスが左折するとき，後ろのタイヤが歩道にかかったため巻き込まれそうになった人もいる。運輸局に報告済み。今後，人身事故も予想される。</p> <p style="text-align: right;">（裏面につづく）</p>
付 託 年月日 委員会	平成 27 年 12 月 7 日 環境建設常任委員会
受 理	平成 27 年 12 月 1 日 第 5 3 1 号

④ B R Tシステムにかかった費用が生かされていない。

白山駅周辺事業では、電車の乗降客をバスに乗り継ぐ計画だったが、今では連節バスは時間がかかるためとまることはない。道路拡張の用地買収費用、駅ターミナル整備にかかった莫大な費用が無駄になった。青山イオンのバスターミナルも歩道を利用した停留所なので狭く、雨が吹き込み寒さをしのぐことはできない。連節バスはおりるのに不便なため敬遠され、今では乗車客数もわずかである。

⑤ まちなか活性化にはならない。

本町に連節バスはとまらず、青山、バスセンターで乗りかえのため、本町、古町では客足が遠のき閑散としている。乗りかえてまで買い物には来ない。

⑥ B R Tシステム、連節バスの今後について。

駅前通りにバス専用道路は、乗用車の路線が減るため渋滞が起こる。また青山間の道路は狭いため拡幅など莫大な投資になり、デメリットである。新潟市は、9,000億円以上の借金を抱える要注意の財政である。今後、B R Tシステムに60億円もの税金を投入していく余裕などない。建設費が財政に占める割合が大きいが市民に還元される事業には使われていない。公共交通は福祉という側面が大きい、中途半端な計画では赤字だけで失敗に終わってしまう。ゆえにB R Tシステムは今の時点で見直す必要がある。

1 結節点での乗りかえはやめる。

2 小型バスで便数をふやす。

市民はB R Tシステムに手厳しい意見である。こんなに不便なやり方を市民に押しつける市長は何を考えているのか。バスを利用したことがなくタクシー利用のため大変さがわからない。早く前のバス路線に戻してほしいと切実な声が多い。連節バスで大量輸送するほど乗客は乗っていない。大型の分燃料費が無駄である。